

**IBM InfoSphere DataStage and  
QualityStage**  
バージョン 11 リリース 3

**接続ガイド: iWay Server 編**

**IBM**



**IBM InfoSphere DataStage and  
QualityStage**  
バージョン 11 リリース 3

**接続ガイド: iWay Server 編**

**IBM**

**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、21 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM InfoSphere DataStage and QualityStage  
Version 11 Release 3  
Connectivity Guide for iWay Servers

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2005, 2014.

---

## 目次

<b>iWay Enterprise ステージ</b> . . . . .	<b>1</b>
iWay Enterprise ステージの作業 . . . . .	1
iWay を介したデータベース表の読み取り . . . . .	2
iWay を介したデータベース表での直接ルックアップの実行 . . . . .	2
iWay を介したデータベース表でのメモリー内ルックアップの実行 . . . . .	3
データ・タイプ変換 . . . . .	3
ステージ・エディターを使用した iWay Enterprise ステージ・プロパティの設定 . . . . .	3
「ステージ」ページ . . . . .	4
「出力」ページ . . . . .	4
<b>付録 A. 製品のアクセシビリティ</b> . . . . .	<b>9</b>
<b>付録 B. コマンド・ライン構文の読み方</b> . . . . .	<b>11</b>
<b>付録 C. 構文図の見方</b> . . . . .	<b>13</b>
<b>付録 D. IBM の窓口</b> . . . . .	<b>15</b>
<b>付録 E. 製品資料へのアクセス</b> . . . . .	<b>17</b>
<b>付録 F. 製品資料に関するフィードバックの提供</b> . . . . .	<b>19</b>
<b>特記事項および商標</b> . . . . .	<b>21</b>
<b>索引</b> . . . . .	<b>27</b>



---

## iWay Enterprise ステージ

IBM® InfoSphere® DataStage® は、データウェアハウスまたはデータマートに表を追加するジョブをデザイン、開発、実行するためのツール・セットです。iWay Enterprise ステージは、パラレル・ジョブで使用できます。

iWay Enterprise ステージは接続ステージです。iWay Enterprise ステージの使用により、iWay サーバーからデータを読み取ることができます。iWay ミドルウェアを使用して、多様なデータ・ソースにアクセスが可能です。iWay ミドルウェアは、一定のデータ・ソースへのアクセスにおける複雑さを解消するもので、メインフレーム・システム上の既存データベースのデータにアクセスするためによく使用されます。

iWay Enterprise ステージは、iWay 5.3 API を使用して iWay サーバーに接続します。このステージは、iWay 5.3 API でサポートされるすべてのプラットフォームとデータ・ソースに接続し、これらをサポートします。このステージは、iWay を介してデータ・ソースからデータを読み取るだけで、データ・ソースへのデータ書き込み機能やデータ・ソースの更新機能はありません。このステージでは、指定された iWay サーバーへの接続をセットアップし、表からのデータ読み取りとデータ・セットへのデータ書き込みを行います。このステージを使用して、iWay サーバーでホスティングされた表でロックアップを実行することもできます。このステージは、読み取り時には順次で、ロックアップ実行時にはパラレルで動作します。

iWay ミドルウェアを使用して、いくつかの異なるデータ・ソースにアクセスすることができます。そのため、特定データ・ソースの読み取りアクセス用の細かなチューニングは、iWay Enterprise ステージではなく、iWay クライアントで行われます。

注: iWay クライアントは、iWay コネクターとも呼ばれています。

---

## iWay Enterprise ステージの作業

iWay Enterprise ステージの編集には、ステージ・エディターを使用します。ステージ・エディターの詳細は、「*IBM InfoSphere DataStage and QualityStage* パラレル・ジョブ開発者ガイド」を参照してください。

iWay Enterprise ステージを使用して iWay サーバーに接続するには、iWay クライアントが InfoSphere DataStage and QualityStage® サーバー上にインストールされている必要があります。クラスター・システムの場合には、iWay クライアントが必ずコンダクター・ノードにインストールされるようにしてください。

最小の手順で iWay Enterprise ステージを動作させることができます。必要な手順は、iWay Enterprise ステージを使用する対象によって異なります。

## iWay を介したデータベース表の読み取り このタスクについて

ジョブで iWay Enterprise ステージを使用するには、一定の情報を指定する必要があります。指定が必要な情報は、iWay データベースにデータを書き込むか、iWay データベースからデータを読み取るかによって異なります。

- 「プロパティ」タブで以下を行います。
  - 読み取り方を指定します。デフォルトの読み取り方は表です。この場合、表から直接データを読み取ります。自動生成 SQL またはユーザー生成の SQL を使用してデータを読み取るように選択することができます。
  - 読み取る表を指定します。
  - 読み取り方にユーザー生成の SQL を指定した場合には、使用する SELECT SQL ステートメントを指定します。読み取り方に自動生成 SQL を指定した場合には、自動生成された SQL ステートメントを必要に応じて編集できます。
  - データ・ソースへの接続にデフォルトの iWay サーバーを使用しない場合には、使用するサーバー名を指定します。
  - セキュリティー・モードを有効にして iWay サーバーが稼働している場合には、有効なユーザー名とパスワードを指定します。
  - 読み取り処理には列メタデータが必ず指定されるようにしてください。

## iWay を介したデータベース表での直接ルックアップの実行 このタスクについて

直接ルックアップを実行するには、以下の手順に従います。

- 参照リンクを使用して Lookup ステージに iWay Enterprise ステージを接続します。
- 「プロパティ」タブで以下を行います。
  - ルックアップ・タイプをスパースに設定します。
  - 読み取り方を指定します。デフォルト値は「表」です。この場合、表から直接データを読み取ります。自動生成 SQL またはユーザー生成の SQL を使用してデータを読み取るように選択することができます。
  - データを読み取る表を指定します。
  - 読み取り方にユーザー生成の SQL を指定した場合には、使用する SELECT SQL ステートメントを指定します。読み取り方に自動生成 SQL を指定した場合には、自動生成された SQL ステートメントを必要に応じて編集できます。
  - データ・ソースへの接続にデフォルトの iWay サーバーを使用しない場合には、使用するサーバー名を指定します。
  - セキュリティー・モードを有効にして iWay サーバーが稼働している場合には、有効なユーザー名とパスワードを指定します。
  - 読み取り処理には列メタデータが必ず指定されるようにしてください。



## iWay を介したデータベース表でのメモリー内ルックアップの実行 このタスクについて

メモリー内ルックアップは、iWay Enterprise ステージのデフォルトのルックアップ方式です。メモリー内ルックアップに必要な手順は、「プロパティ」タブでルックアップ・タイプを通常に設定すること以外は、直接ルックアップの場合と同じです。

### データ・タイプ変換

データの読み取り時に、iWay Enterprise ステージは、次の表に示すように iWay データ・タイプを IBM InfoSphere DataStage データ・タイプに自動的に変換します。

表 1. iWay Enterprise ステージのデータ・タイプ変換

InfoSphere DataStage SQL データ・タイプ	基礎データ・タイプ	iWay データ・タイプ
Integer	int32	Integer
Float、 Real	sfloat	Single Float
Double	dfloat	Double Float
Decimal Numeric	decimal ( <i>m,n</i> )	Decimal ( <i>m,n</i> )
Unknown Char LongVarChar VarChar	string [ <i>n</i> ]	Alphanumeric (length= <i>n</i> )
Binary Bit LongVarBinary VarBinary	raw	Binary
Date	date	Date
Unknown Char LongVarChar VarChar	string	Text
サポート対象外	サポート対象外	Graphic (DBCS)
Time	time	Time
Timestamp	timestamp	Timestamp

### ステージ・エディターを使用した iWay Enterprise ステージ・プロパティ の設定

iWay Enterprise ステージを動作させるには、ステージ・エディターを使用して次のプロパティを設定する必要があります。

## 「ステージ」ページ

「ステージ」ページには、「全般」、「詳細」、「NLS」という最大で 3 つのタブがあります。これらのタブを使用して、iWay Enterprise ステージのプロパティを指定できます。

### 「全般」タブ

「全般」タブでは、ステージのオプションの説明を指定できます。

### 「詳細」タブ

「詳細」タブで、ステージの実行方法を指定することができます。次のプロパティを指定できます。

- 「**実行モード**」。読み取り処理の実行時には、ステージはデフォルトで順次モードで実行されます。順次モードでは、コンダクター・ノードがその処理を行います。ルックアップ処理の実行時には、ステージはデフォルトでパラレル・モードで実行されます。
- 「**結合可能モード**」。デフォルトの結合可能モードは「自動」です。「自動」モードでは、パラレル・ステージを構成するオペレーターが結合され、パフォーマンス向上のために同じプロセスで実行されます。
- 「**パーティションの保持**」。「設定」または「クリア」を選択できます。「設定」を選択すると、読み取り処理は、パーティションを保持する要求を次のステージに送ります。
- 「**ノード・プールとリソースの制約**」。このオプションを選択すると、グリッドに指定されたノード・プールとリソース・プールにパラレル実行が制約されます。グリッドを使用して、ノード・プールとリソース・プールを選択します。選択は、構成ファイルから取り込まれます。
- 「**ノード・マップの制約**」。このオプションを選択すると、定義されたノード・マップのノードにパラレル実行が制約されます。ノード・マップを定義するには、テキスト・ボックスにノード番号を入力するか、「参照」ボタンをクリックして「**使用可能なノード**」ウィンドウからノードを選択します。

注: このステージを使用して iWay を介して表の直接ルックアップ処理を実行する場合、つまり、ルックアップ・モードにスパースを選択している場合、「ステージ」ページの「詳細」タブはブランクです。

### 「NLS マップ」タブ

「NLS マップ」タブでは、iWay Enterprise ステージの文字セット・マップを定義することができます。定義した文字セット・マップは、プロジェクトまたはジョブに設定されたデフォルトの文字セット・マップをオーバーライドします。ジョブにパラメーターとして NLS マップが必要な場合、マップをジョブ・パラメーターとして指定する必要があることをこのタブで指定できます。

## 「出力」ページ

「出力」ページでは、iWay Enterprise ステージが iWay サーバーを介してデータを読み取る方法を指定できます。iWay Enterprise ステージは、1 つしか出力リンクを持つことができません。「出力」ページには、「全般」、「プロパティ」、「列」、「詳細」の 4 つのタブがあります。

## 「全般」タブ

「全般」タブでは、出力リンクのオプションの説明を指定できます。

## 「プロパティ」タブ

「プロパティ」タブでは、出力リンクのプロパティを指定できます。指定したプロパティによって、着信データをどの表からどのように読み取るかを指示します。デフォルト設定がないプロパティは赤色で表示され、値を指定すると黒色になります。

次の表で、プロパティとその属性をリストします。その後、各プロパティの詳細な説明を示します。

表2. ソース・プロパティと対応する値

プロパティ	値	デフォルト	必須？	従属
ルックアップ・タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>通常</li><li>スパス</li></ul>	通常	出力が Lookup ステージに接続された参照リンクである場合、はい	N/A
読み取り方式	<ul style="list-style-type: none"><li>表</li><li>自動生成 SQL</li><li>ユーザー定義 SQL</li></ul>	表	はい	N/A
表	<string>	N/A	読み取り方式が「表」または「自動生成 SQL」の場合、はい	N/A
WHERE 節	<string>	N/A	いいえ	表
選択リスト	<string>	N/A	いいえ	表
照会	<string>	N/A	はい (読み取り方式が「自動生成 SQL」または「ユーザー定義 SQL」の場合)	N/A
タイムアウト	<string>	0	いいえ	N/A

表3. 接続プロパティと対応する値

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
サーバー	<string>	N/A	いいえ	N/A
ユーザー	<string>	N/A	いいえ	N/A
パスワード	<string>	N/A	いいえ	N/A

表4. オプション・プロパティと対応する値

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
クローズ・コマンド	<ストリング>	N/A	いいえ	N/A
照会タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SQL</li> <li>• コマンド</li> <li>• ストアード・プロシージャ</li> </ul>	SQL ストリング	いいえ	クローズ・コマンド
タイムアウト	<ストリング>	0	いいえ	クローズ・コマンド
オープン・コマンド	<ストリング>	N/A	いいえ	N/A
照会タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SQL</li> <li>• コマンド</li> <li>• ストアード・プロシージャ</li> </ul>	SQL ストリング	いいえ	オープン・コマンド
タイムアウト	<ストリング>	N/A	いいえ	オープン・コマンド
データ・パスワード	<ストリング>	N/A	いいえ	N/A
EDA 設定	<ストリング>	N/A	いいえ	N/A

## ソース・カテゴリー

### ルックアップ・タイプ

iWay Enterprise ステージが参照リンクを介して Lookup ステージに接続される場合に、iWay Enterprise ステージが、データベースにおけるメモリー内ルックアップ処理または直接ルックアップ処理のどちらのデータを提供するかを指定できます。

### 読み取り方式

iWay を介してデータベースを読み取る場合に、表または照会を指定できます。「表」プロパティを使用するには、読み取り方式に「表」を選択します。読み取り方式に自動生成 SQL を選択すると、定義した列と表プロパティに指定した表に基づいて、SQL 照会が自動的に生成されます。独自の照会を定義するには、「ユーザー定義 SQL」を選択します。

### 照会

読み取り方式に「ユーザー定義 SQL」または「自動生成 SQL」を選択した場合、このプロパティで SQL 照会を指定できます。自動生成 SQL を使用する場合は、表を選択し、列定義を指定してください。SQL ステートメントには、結合、ビュー、データベース・リンク、同義語などを含めることができます。

## 表

iWay を介してアクセスする表の名前を指定します。表に対する選択特権が必要です。

読み取り方式に「表」を使用する場合、「表」プロパティには、次の従属プロパティがあります。

### • WHERE 節

このプロパティを使用して、SELECT ステートメントの WHERE 節を指定し、読み取り処理に含める、または読み取り処理から除外する表行を指定することができます。WHERE 節を指定しないと、すべての行を読み取ります。

### • 選択リスト

このプロパティを使用して、列名の SQL 選択リストを指定できます。

## タイムアウト

読み取り処理またはロックアップ処理に指定された SQL ステートメントのタイムアウト値 (秒) をオプションで入力します。デフォルト値は 0 です。この場合、SQL ステートメントの実行を待機する時間が無期限になります。

## 「接続」カテゴリー

### サーバー

データベースへのアクセスに使用する iWay サーバーをオプションで指定します。ここでサーバーを指定しないと、デフォルトのサーバーが使用されます。

### ユーザー

iWay サーバーへの接続時に使用するユーザー名をオプションで指定します。iWay サーバーでセキュリティー・モードが使用不可になっている場合、これは必須ではありません。

### パスワード

iWay サーバーへの接続時に使用するパスワードをオプションで指定します。iWay サーバーでセキュリティー・モードが使用不可になっている場合、これは必須ではありません。

## 「オプション」カテゴリー

### クローズ・コマンド

データ・リトリブ後に実行する SQL ステートメントをオプションで指定します。クローズ・コマンドのオプションには、次の 2 つのサブオプションがあります。

#### • 「照会タイプ」。

クローズ・コマンドに含まれる照会のタイプを記述します。次のいずれかのオプションを選択します。

- SQL

- コマンド
- ストアード・プロシージャ
- 「タイムアウト」。

クローズ・コマンドで指定された SQL ステートメントのタイムアウト値 (秒) をオプションで指定します。デフォルト値は 0 です。この場合、SQL ステートメントの実行を待機する時間が無期限になります。

### オープン・コマンド

データ・リトリブ後実行する SQL ステートメントをオプションで指定します。オープン・コマンドのオプションには、次の 2 つのサブオプションがあります。

- 「照会タイプ」。

オープン・コマンドに含まれる照会のタイプを記述します。次のいずれかになります。

- SQL
- コマンド
- ストアード・プロシージャ

- 「タイムアウト」。

オープン・コマンドで指定されたステートメントのタイムアウト値 (秒) をオプションで指定します。デフォルトは 0 です。その場合、IBM InfoSphere DataStage は、ステートメントの実行を無期限に待ちます。

### データ・パスワード

指定された表へのアクセスで使用するパスワードをオプションで指定します。

### EDA 設定

*name=value* の組をセミコロンで区切ったリストで、iWay 環境変数の値をオプションで指定します。

---

## 付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、[http://www.ibm.com/able/product\\_accessibility/index.html](http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html) の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

### アクセシビリティ対応資料

IBM Knowledge Center には、製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。IBM Knowledge Center では、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。IBM Knowledge Center では XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

IBM Knowledge Center にある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

### IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。





---

## 付録 B. コマンド・ライン構文の読み方

この資料では、特殊文字を使用してコマンド・ライン構文を定義しています。

次の特殊文字によってコマンド・ライン構文が定義されます。

- [ ] オプションの引数を識別します。大括弧で囲まれていない引数は必須です。
- ... 前の引数に複数の値を指定できることを示します。
- | 同時には使用できない情報であることを示します。区切り文字の左側の引数か、右側の引数のどちらか一方を使用できます。単一のコマンド使用で、両方の引数を使用することはできません。
- { } 同時には使用できない一連の引数を囲みます。この内の 1 つは必須です。引数がオプションの場合、引数は大括弧 ([ ]) で囲まれます。

注:

- 引数の最大文字数は 256 です。
- 埋め込みのスペースがある引数値は、単一引用符または二重引用符で囲みます。

例:

```
wsetsrc[-S server] [-l label] [-n name] source
```

*source* 引数は、**wsetsrc** コマンドで唯一必須の引数です。他の引数は大括弧で囲まれています。これは、これらの引数がオプションであることを示します。

```
wlsac [-l | -f format] [key... ] profile
```

この例で、**-l** および **-f format** 引数は、同時には使用できないもので、オプションでもあります。*profile* 引数は必須です。*key* 引数はオプションです。*key* 引数のあとの省略符号 (...) は、複数の *key* 名を指定できることを示します。

```
wrb -import {rule_pack | rule_set}...
```

この例で、*rule\_pack* および *rule\_set* 引数は同時には使用できませんが、どちらか 1 つの引数は指定する必要があります。また、省略符号 (...) は、複数の *rule\_pack* または *rule\_set* を指定できることを示します。



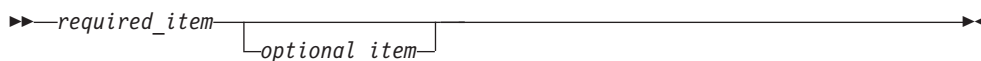
## 付録 C. 構文図の見方

本書で使用される構文図には、以下の規則が適用されます。

- 構文図は、左から右、上から下に、線に沿って読みます。以下の規則が使用されます。
  - >>--- 記号は、構文図の始まりを示します。
  - ---> 記号は、構文図が次の行に続くことを示します。
  - >--- 記号は、構文図が前の行から続いていることを示します。
  - --->< 記号は、構文図の終わりを示します。
- 必須項目は、水平線 (メインパス) 上にあります。



- オプション項目はメインパスの下に表示されます。

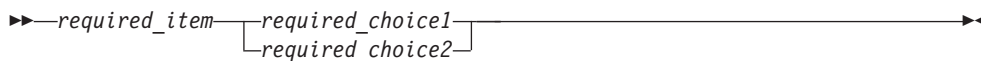


オプション項目がメインパスの上に表示される場合、その項目は構文要素の実行に影響せず、単に読みやすくするために使用されます。

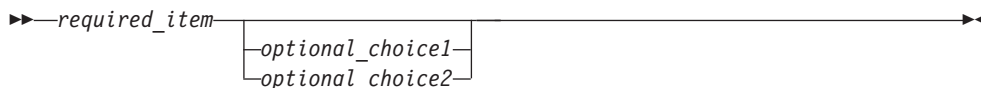


- 複数の項目から選択できる場合は、それらの項目を縦に並べて (スタック) 示しています。

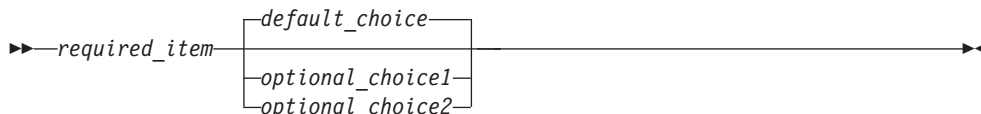
項目の 1 つを選択する必要がある場合は、スタックの 1 つの項目がメインパス上に示されています。



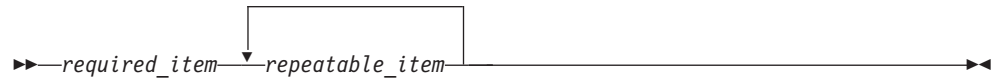
項目から 1 つをオプションで選択できる場合、スタック全体がメインパスよりも下に示されます。



項目の 1 つがデフォルトである場合は、その項目はメインパスの上に表示され、残りの選択項目は下に示されます。



- メインラインの上に、左へ戻る矢印がある場合には、項目を繰り返して指定できることを示しています。



繰り返しの矢印にコンマが含まれている場合は、繰り返し項目をコンマで区切らなければなりません。

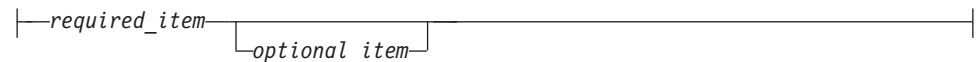


スタックの上の反復矢印は、スタック内の項目を反復できることを示します。

- 構文図が、複数のフラグメントに分かれている場合があります。構文フラグメントはメインの構文図とは別に示されますが、フラグメントの内容は、図のメインパス上にあるものとして読む必要があります。



#### fragment-name:



- キーワードは大文字で表示され、最小の省略形が存在する場合にはそれも大文字で表示されます。示されているとおりに入力する必要があります。
- 変数は、すべて小文字のイタリック体 (例えば、*column-name*) で表示されます。これらは、ユーザーが指定する名前または値を表します。
- 図の中に句読点がない場合は、キーワードおよびパラメーターを 1 つ以上のスペースで区切ります。
- 句読記号、括弧、算術演算子、およびその他の記号は、図に示されているとおりに入力してください。
- 脚注は、(1) のように、括弧の中に数字を入れた形で示されます。

## 付録 D. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表 5. IBM リソース

リソース	説明と場所
IBM サポート・ポータル	サポート情報は、 <a href="http://www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server">www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server</a> で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。
ソフトウェア・サービス	ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト <a href="http://www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja">www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja</a> にアクセスしてください。
My IBM	<a href="http://www.ibm.com/account/jp/ja/">www.ibm.com/account/jp/ja/</a> の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。
研修と認定	個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 <a href="http://www.ibm.com/training">http://www.ibm.com/training</a> にアクセスしてください。
IBM 担当員	ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 <a href="http://www.ibm.com/connect/ibm/us/en/">www.ibm.com/connect/ibm/us/en/</a> にアクセスしてください。



---

## 付録 E. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

### IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

**注:** F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

[http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ\\_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html)

#### ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc/⇒  
common/accessingiidoc.html
```

## ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

### Windows

```
IS_install_path¥ASBServer¥bin¥iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

### AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター server1.example.com 上の URL 値は、http://server1.example.com:8888/help/topic/ になります。

## PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 <https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1> からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには <http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> の IBM Publications Center にアクセスしてください。



---

## 付録 F. 製品資料に関するフィードバックの提供

IBM の資料に関する貴重なフィードバックをご提供ください。

お客様からのご意見やご感想は、IBM が質の高い情報を提供するための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただく場合は、次のいずれかの方法を使用することができます。

- IBM の Web サイトでホストしている IBM Knowledge Center 内のトピックについてコメントをお寄せいただくには、サインインし、トピックの下の「**コメントの追加**」ボタンをクリックしてコメントを追加してください。このようにして送信されたコメントは、一般に公開されます。
- IBM Knowledge Center 内のトピックに関するコメントを IBM に送信し、他の人からは閲覧できないようにするには、サインインし、IBM Knowledge Center の下の「**フィードバック**」リンクをクリックしてください。
- オンライン・リーダー用のコメント・フォーム ([www.ibm.com/software/awdtools/rcf/](http://www.ibm.com/software/awdtools/rcf/)) を使用して、コメントを送信します。
- コメントを E メールで [comments@us.ibm.com](mailto:comments@us.ibm.com) に送付します。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定のテキストについてご意見がある場合は、そのテキストの位置 (例えば、タイトル、表番号、ページ番号など) を記載してください。



---

## 特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

### 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J46A/G4  
555 Bailey Avenue  
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用する場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 6. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない

表 6. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Metadata Asset Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>拡張されたユーザーのユーザビリティ</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage	Big Data File ステージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名</li> <li>デジタル署名</li> <li>セッション ID</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage	XML ステージ	セッション	内部 ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage	IBM InfoSphere DataStage and QualityStage Operations Console	セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Data Click	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Data Quality Console		セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Information Governance Catalog		<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名</li> <li>内部 ID</li> <li>ツリーの状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Information Analyzer	InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ	セッション	セッション ID	セッション管理	無効にできない

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ

ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java<sup>™</sup> およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。





---

## 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [ア行]

お客様サポート  
連絡先 15

### [カ行]

概要 1  
構文  
    コマンド・ライン 11  
コマンド  
    構文 11  
コマンド・ライン構文  
    規則 11

### [サ行]

サポート  
    お客様 15  
    「出力」ページ 4  
出力プロパティ 5  
    「詳細」タブ 4  
商標  
    リスト 21  
    「ステージ」ページ  
        「詳細」タブ 4  
        「NLS マップ」タブ 4  
製品資料  
    アクセス 17  
製品のアクセシビリティ  
    アクセシビリティ 9  
接続、iWay サーバーへの 1  
ソフトウェア・サービス  
    連絡先 15

### [タ行]

直接ルックアップ 2  
データ・タイプ変換 3  
特殊文字  
    コマンド・ライン構文での 11  
特記事項 21

### [ハ行]

プロパティ  
    iWay Enterprise ステージの出力 5  
変換  
    タイプ 3

### [マ行]

メモリー内ルックアップ 3

### [ヤ行]

読み取り 2

### [ラ行]

ルックアップ  
    メモリー内 3

## I

iWay Enterprise ステージ 1  
iWay Enterprise ステージの出力プロパティ 5

## N

「NLS マップ」タブ 4

## W

Web サイト  
    IBM 以外 13







Printed in Japan

SC43-0962-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21